

認知症キッズサポーターフォローアップ講座「ひがも5 D プロジェクト」

堺市認知症介護指導者

川添 揚一

キーワード:サポーターフォローアップ 能動的活動
体験的理解

活動の概要(活動の主体:堺市中第2地域包括支援センター)

【活動目的】

認知症キッズサポーター養成講座受講後の振り返りと、認知症の基礎的理解を図ると共に、将来の認知症の方とのコミュニケーションを想定してコミュニケーションのポイントを学ぶ。

【活動内容】

2019年4月、堺市基幹型包括支援センター、堺市中第2包括支援センターより、「2年前の堺市立東百舌鳥小学校において小学校3年生の時にキッズサポーター講座を受講した小学校5年生を対象にしたサポーターフォローアップ講座を開催してほしい。」との依頼あり。

1. 導入(10分)
2. 認知症の基礎的理解(15分)・認知症とは・認知症の種類と特徴・BPSDについて
3. ワーク1(20分)・共感的理解「認知症になったらどんな気持ちになるだろう?」
4. ワーク2(30分)・自分たちができることを考える。
5. 講義の振り返りとまとめ(10分)
6. 講義の振り返り

活動の経過と成果

【活動の経過】

4月:堺市包括支援センターより依頼あり、5月:初顔合わせ、7月:講義案を打ち合わせ、8月:当日ボランティア参加者募集、打ち合わせ、9月初旬:事前学習実施、9月17日講義開催。

【活動の成果】

当日は東百舌鳥小学校5年生190名程度、父兄10名程度が参加。講義については冒頭のアイスブレイクである〇×クイズから生徒たちも積極的に参加。事前学習内容への質問にも多数の生徒が挙手し答えてくれた。認知症の種類についても主要な4種類・中核症状についても障害名とその内容についても全て答えることができおり、事前学習を通じて認知症についての基本的な知識を身につけていることが伺えた。グループワークも全てのグループで必要なルールを守りながら満遍なく活発に行われ、全てのグループから複数回の発表してもらうことができた。終了後の振り返りにおいて担任の先生やファシリテーターからは肯定的な意見を数多くもらうことができた。参加した小学生には全員について記述式のアンケートを実施し190件ほど回収(包括支援センター管理)。内容については「楽しく学ぶことができた。」「今後も教えてもらったことを活かしていきます。」などの内容が多く、親御さんのコメントにも「帰ってきて認知症について話してくれた。」「自分が認知症になっても助けてあげると言ってもらえた。」など肯定的な意見が多く今回の講座に一定の成果があったものと考えられる。



今後の展望

講義終了後の振り返りでも、子供たちが積極的に楽しく学べる非常に良い講座だったとの意見をいただき、来年度以降も継続をお願いしたいとのことであったがコロナウィルスの感染拡大に伴い令和2年度の講座開催は見送りとなり今後の予定は未定。再開の際には積極的に協力していく予定。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。